

平成 28 年度自己評価シート(年度末評価)

校番	1	学校名	広島県立広島皆実高等学校	校長氏名	隠澤浩雄	Ⓔ・定・通	Ⓔ・分
----	---	-----	--------------	------	------	-------	-----

学校経営目標								
達成目標	評価指標	前年度		本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	目標値	実績値			
1 知・徳・体の基礎・基本を身に付け、文武両面で力を発揮することができる生徒を育てる。								
生徒の学力・技術向上 (活用コース スクール指定にかかる取組の推進)	生徒アンケート 「この授業を受けて、 学力や技術の向上を実感している」 に肯定的に解答している生徒の割合	新規	80%	93.8%	A	相互授業観察を実施した。思考力を問う問題の分析や、ルーブリックの検討を教科主任会議・プロジェクトチームで行った。生徒アンケート結果では目標を上回った。	教務	
家庭学習時間の確保	1日の家庭学習時間 (分)	1年 145 2年 150 3年 239	1年 130 2年 160 3年 240	1年 118 2年 150 3年 277	C	3年生しか目標を達成できなかった。	教務 学年会	
全国大会レベルの部活動	全国大会出場生徒数	149人	120人以上	179人	A	インターハイ・国体など数々の全国大会に出場することができ、目標値を大きく上回った。	特別活動	
豊かな人間性や社会性の育成	社会貢献への参加 生徒割合	76%	90%	80%	B	自主的な清掃活動、交通安全協会、健全育成団体の活動への参加、児童館への出前授業、募金活動を行った。また地元開催の全国大会へ補助役員として参加した。学校全体とは実施できなかった。	特別活動	

【評価結果の分析】

- ・家庭学習時間の確保について、3年生では目標を大きく上回る実績値を残したが、1年生と2年生では目標に達することが出来なかった。1年生は前年比でも下回っており、テコ入れの必要がある。2年生は前年比では上回ることも多く、3年での目標達成は可能と考えられる。
- ・全国大会レベルの部活動について、本年度は地元中国インターハイということもあり、昨年度より出場人数が大幅に増加した。上位入賞者は昨年と比べると減少したが、柔道女子2名という成果を残した。また高等学校総合文化祭の広島開催ということで6名の出場、合わせて新たにスーパーコンピューターコンテストへ3名位出場という機会を得ることができ、文化部、運動部ともに地元開催という特別な環境ということも含め大きな成果を上げることができた。
- ・豊かな人間性や社会性の育成に関しては、部活動、衛生看護科による清掃活動、また自主的な清掃活動、交通安全協会、健全育成団体野活動への参加、広島市平和記念式典介護ボランティア、児童館への出前授業などを行った。また災害等の緊急募金活動を積極的に行い、熊本の震災をはじめ東北大地震、広島市の水害、ユニセフ、日赤などへ皆実祭の収益金なども含め送ることができ、生徒への意識も高めることができた。しかしながら課題である学校全体の取り組みとしての活動は実施することができなかった。また本年度は上記の全国大会が広島で開催されたことに伴いインターハイ 45名、全国総合文化祭 55名の生徒たちが、所属クラブの枠を超えて補助役員として参加することができ、特別な経験を積むことができた。

【今後の改善方策】

- ・ホームルーム担任からだけの指導では目標値の達成は難しいと考えられるので、クラブ顧問からの指導を今年にも増して加えてい

く。また、小テスト・日常の宿題・週末課題予習をきちんと取り組ませ、さらに予習を前提とした授業を展開することで家庭学習時間を増加させたい。

- ・全国大会レベルの部活動に関しては、平成 28 年度に全国高等学校総合体育大会（中国インターハイ）の一部競技や全国高等学校総合文化祭が広島で開催された経験を生かし、昨年度の反省を競技成績や成果に生かし、より一層の努力をすることによりレベルアップを目指し、「Team MINAMI」としての飛躍につなげたい。
- ・豊かな人間性や社会性の育成に関しては、これまでの自主的な社会貢献活動を基本とする取組みを継続して行うとともに、地元で開催された大会の経験をもとに、積極的にボランティア活動に取り組む姿勢を育み、広い視野を持ち、将来にわたって社会貢献活動に取り組む姿勢を育成するよう取組みを強化する。

2 高い志と確かな目標を持ち、進路希望を実現していける生徒を育てる。								
	「学習意欲の向上」（「学びの変革」アクションプランにかかる取組の推進）	生徒アンケート「この授業を受けて、興味・関心が深まり学ぶ意欲が出てきた」に肯定的に回答している生徒の割合	新規	80%	94.3%	A	年間をとおしての授業改善につながるように、公開研究授業への取り組みと相互授業観察をリンクさせた。生徒アンケートでは目標を上回った。	教務
	〔普通科〕希望する大学への進学	難関中堅国公立大学（旧帝大・医歯薬学部・東京近郊・大阪府・京都府及び筑波大・神戸大・岡山大）及び難関私大（早慶・明治・青山学院・立教・中央・東京理大・関関同立）合格者数	31人 (13%)	30人 (13%)	48人 (20%)	A	名古屋大1人・九州大2名・大阪大1人・大阪市立大1名・岡山大1人・学習院大1名・東京理科大1人・立教大3名・青山学院大1人・法政大1名・関関同立35人。合計48名となり、目標を上回った。	進路指導
		地元国公立3大学合格者数	30人 (13%)	30人 (13%)	30人 (13%)	A	AO・推薦・前期で広島大12人・県立広島大8名・広島市立大10人が合格し、目標を達成した。	
	〔衛生看護科・専攻科〕 看護者として希望する進路実現	就職先（進学含）内定率	100%	100%	100%	A	専攻科2年生のうち就職希望者全員（35名）の内定が決定した。進学希望者（1人）も第一希望の大学への進学が決定した。	看護
		看護師国家試験の合格率	100%	100%	100%	A	個人面接、放課後・土曜日補習、講師を招聘し保護者説明会等の指導を計画的に取り入れた。2月19日に看護師国家試験に全員合格した。	
	〔体育科〕専門を生かした進路実現	教科・競技を生かした進学割合／専門分野への進学者数	76%／ 15人	75%／ 半数以上	67%／ 16人	B	専門性を生かした進学割合は目標値を下回った。しかし、競技を続けるため、スポーツ推薦が実施される他学部に進学したり、将来を見据えた進路選択をしっかりと実践できた。	体育

【評価結果の分析】

- 平成 29 年度の大学入試センター試験において、平均点通過率が 5 科目を除いて昨年度を上回ったが、平均点通過率 50%を越えている教科は国語、英語(筆記)、倫理・政治・経済、倫理(9名受験)の 4 科目のみであった。英語(筆記)の全国平均点が上昇したため、文系生徒は強気の国公立及び私大出願がやや多い傾向がある。国公立大の出願者は昨年より 16 名多い 146 名であった。旧帝大出願者も昨年の 7 名から 10 名に増加し、旧帝大推薦入試合格者も出た。また、体育科出身の浪人生ではあるが、私大の医学部医学科合格者も 1 名いる。
- 看護職者としての進路を実現するため、社会人講師の活用や先輩に学ぶ会、個別の就職指導などを計画的に行った。また看護実践能力を身に付けるため、生徒が主体的に学習する授業方法の工夫に取り組んだ。看護師国家試験には全員が合格した。就職希望者の進路は、専攻科 2 年生 36 名のうち 35 名が就職した。県内就職者が 31 名、県外就職者が 4 名である。また、1 名が大学助産師別科へ進学した。
- 専門を生かした進路実現に関しては、体育科の担任が 1、2 学期に全体面接を 3 回実施するとともに、各部活動顧問も 3 年生を中心に面接を実施した。また、生徒の指導経験を生かした場面の設定では、地元中学校で出前授業を実施し、生徒の意識の醸成を図った。その結果、将来をしっかりと見据え、進路実現を達成することができた。16 人の生徒が体育・スポーツ・健康教育や初等教育などの専門分野へ進学し、そのうち 3 人が国公立大(広島大 1 人、福岡教育大 2 人)へ進学することができた。また、スポーツ推薦など競技実績を生かして進学している生徒は、引き続き競技を継続していく。教科・競技を生かした進学割合、および専門分野への進学者数について目標を達成することができなかったが、以前よりしっかりと将来を見据えた進路選択することが実践できた。

【今後の改善方策】

- 新学習指導要領・新テストの導入等で入試制度や入試出題傾向も多様に変化してくるが、今後さらに既習知識の定着と知識を活用し思考する訓練が必要である。「活用コア」で来年度の各教科カリキュラムの作成がされているが、入試においても、センター試験問題への表面上の対応(コンテンツ・ベース)からコンピテンシー・ベース(方法知の獲得)へ転換が不可欠である。授業の改善が結果を変える方策の 1 つである。個々に対するきめ細かい対応は継続しなければならない。
- 看護者として希望する進路実現に関しては、看護師国家試験の確実な合格が継続するように、また高い意識と専門性を持った看護師となるよう、看護実践力を身に付けるための授業研究、チューター制指導による面接、放課後・土曜日補習、講師を招聘しての保護者説明会等をさらに充実させていく。
- 専門を生かした進路実現に関しては、自らの競技実績を生かしながら専門分野への進路希望を実現できる学力、体力、競技力を身に付けさせるように引き続き指導を充実させていく。また、自分の将来はどうあるべきなのか。ということをしかりと考えさせ、進路選択が達成できるように、3 年間計画的に指導を積み重ねていくことが重要である。

3 地域から信頼される学校となる。								
	「安全・安心・信頼される学校」(広島県教育に関する大綱にかかる取組の推進)	生徒・保護者アンケート「皆実高校は安心して勉強や部活動に打ち込み,より良い人間関係の中で生活できる学校づくりを進めている」に肯定的に回答している生徒・保護者の割合	新規	100%	98%	B	教育相談体制の整備として,PTAの協力のもと9月より教育相談員の配置を月1回4時間行い相談活動の充実につながった。	保健・生徒指導
	積極的な情報発信	1年以内の更新項目割合	100%	100%	100%	A	①未更新箇所をチェックし,順次更新した。部活動の結果などについて随時ホームページ掲載をした。	総務
	入学希望者の増加	オープンスクール,学校説明会等参加者数	1600人	1500人以上	1901	A	①オープンスクール,衛生看護科体験入学,学校説明会に合計1,901名の参加者があり,昨年を上回った。②塾主催の説明会では509名の参加者があった。	

【評価結果の分析】

- 9月より配置となった教育相談員の相談は毎月満杯状態で,次の月まで待機状態となるなど生徒や保護者からのニーズに応えきれていないところがある。また,一方で相談室や教育相談員の存在を認知していない状況もあり,安心を提供するためにも確実に伝えるような情報発信が必要である。
- 積極的な情報発信に関しては,昨年度同様にホームページの全ての項目の更新を行うことができ,目標を達成することができた。特に,部活動の大会の記録については時期を決め,タイムリーに更新することができた。
- 入学希望者の増加に関しては,オープンスクール,学校説明会に多くの参加者があった。今年度は案内の時期を5月初旬にホームページに掲載するなど積極的な情報発信に努めた。その結果,オープンスクール,学校説明会等への参加者数は昨年度の1600人から1901人へと大きく増え,目標を達成することができた。

【今後の改善方策】

- 相談室及び教育相談員による相談活動についてHPや広報誌で生徒,保護者へ周知していく。県が配置するスクールカウンセラー等も要望し,相談回数を増やす。
- 積極的な情報発信に関しては,ホームページの更新の時期・内容を含む更新計画をつくり,更新できる体制づくりをさらに押し進める。
- 入学希望者の増加に関しては,次年度のオープンスクール等について,参加対象者の希望を把握し,それに合った企画,運営を検討する。

平成28年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	1	学校名	広島県立広島皆実高等学校	校長氏名	隠澤浩雄	④・定・通	④・分
----	---	-----	--------------	------	------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1) 成果

家庭学習時間の確保に関しては、進路実績がよかった平成22年度入学生の実績（1年107分、2年157分、3年268分）を常に意識しながら、担任、教科担当者、部活動顧問との連携を密にし、学習時間が少ない生徒への個別指導等を強化するなど、学習時間を増加させる取組みを進めてきた。その結果、3年生は、昨年度の239分から277分へ学習時間を増やすことができ、学年の目標を上回った。1年生については、昨年度の145分から118分へ、2年生は150分と変わらず、学年の目標達成をすることができなかった。

全国大会レベルの部活動に関しては、人数的には昨年度を30名上回り、夏の全国総合体育大会（インターハイ）や、冬の選手権では、男子サッカー部、男女バスケットボール部がそろって出場し、男女バスケットボール部は、ともにベスト16入りを果たす等の成果を残した。また、文化部においても、書道部・吹奏楽部の生徒が広島で開催された全国高等学校総合文化祭へ参加したり、その運営に多くの生徒が関わったりして大会を盛り上げた。運動部と文化部の両面においていろいろな場面で活躍し、目標を達成することができた。昨年度から取り入れたように、生徒が壮行式や出場報告を行い、「Team MINAMI」としての奮闘を確認し合うなど、全国大会に出場した生徒だけではなく、全校生徒で健闘を称えあう雰囲気・場をつくることで、「Team MINAMI」が「全国レベル」という意識も定着している。

豊かな人間性や社会性の育成に関しては、部活動・学科（衛生看護科）による清掃活動、生徒による自主的な清掃活動とともに、交通安全協会、健全育成団体の活動への参加、広島市平和記念式典介護ボランティア、児童館への出前授業などを行った。皆実祭での収益や生徒会予算の中から、熊本震災、東北大震災、赤十字、ユニセフなどへの募金を行うなど、昨年度の活動に加え、様々な募金活動を実施したが、学校全体としての取組みの面で課題が見られ、目標を達成することができなかった。また、広島開催のインターハイに45名、全国総合文化祭に55名の生徒たちが、所属クラブの枠を超えて補助役員として参加する経験し、貴重な体験となった。

希望する大学への進学に関しては、国公立大学進学を諦めず、最後まで頑張ろうといった進学意識の涵養は、よくできたと考えられる。国公立大学への出願については、昨年度を上回る146名が出願し、旧帝大出願者も昨年度を上回る10名が出願している。また、体育科出身の浪人生が私立大学の医学部医学科への合格者となった。国公立大学の前期試験で合格者が出た国立大学数は、北は秋田から鹿児島まで幅広く合格者を出すことができ、難関国立大では4名、広島大では12名の合格者が出た。

看護師として希望する進路実現に関しては、各種行事、社会人講師の活用、地域の児童館や老人保健施設等での出前授業などを実施した。また、看護実践能力を向上させるため、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業実践を行い、面接指導、看護師国家試験に向けて適宜個別の指導を行うなど、看護実践能力を身に付けることができるように計画的に取り組むことができた。その結果、専攻科修了生のうち就職希望者全員（35名）の内定が決定するとともに、進学希望者（1名）も第一希望の大学への進学が決定した。看護師国家試験に全員合格した。

専門を生かした進路実現に関しては、体育科の担任が1学期に全体面接を2～3回実施するとともに、各部活動顧問も3年生を中心に面接を実施した。また、生徒の指導経験を生かした場面の設定では、昨年度に続いて地元中学校で授業を実施し、生徒の意識の醸成を図った。卒業生のうち16名の生徒が体育・スポーツ・健康教育や初等教育などの専門分野へ進学し、全国大会の上位成績を生かした3人が国公立大（広島大1人、福岡教育大2人）へ進学することができた。教科・競技を生かした進学割合、専門分野への進学者数については目標を達成することができなかったが、生徒個々がしっかりと将来設計をした上での進路選択をすることができた。

積極的な情報発信に関しては、昨年度同様に、2学期のはじめまでにホームページの全ての項目の更新を行うことができ、目標を達成することができた。特に、部活動の大会の記録については時期を決め、タイムリーに更新することができた。

地域・保護者からの高い期待に関しては、学校行事等に保護者をはじめ多くの来場者があり、来場者は昨年度の3030人には及ばなかったが、2800人も来場者があり、目標を達成することができた。

入学希望者の増加に関しては、オープンスクール、体験入部、学校説明会に多くの参加者があった。今年度は案内の時期を6月初旬にホームページに掲載するなど積極的な情報発信に努めた。その結果、オープンスクール、学校説明会等への参加者数は昨年度の1600人から1901人へと大きく増え、目標を達成することができた。

(2) 課題

家庭学習時間の確保に関しては、3年生については、目標を上回ったが、2年生については、1年次よりも学習時間がわずかに伸びたが、学年目標には及ばなかった。2年生については、学校行事や部活動において中心的な役割を担っており、そのことが家庭での十分な学習時間の確保に結びついていない可能性もある。

全国大会レベルの部活動に関しては、大きな成果を残すことができた。部活動については、さらにより一層高いレベルを目指すとともに、「文武両道」の観点から家庭学習時間の確保などについて、担任・教科担当者と引き続き連携を密にしていく必要がある。

豊かな人間性や社会性の育成に関しては、募金活動やボランティア活動を生徒へ紹介したが、部活動との関係で参加できない生徒も多く、学校全体としての十分な社会貢献活動の取組みにはいたらなかった。

希望する大学への進学に関しては、平成 29 年度の大学入試センター試験においては、平均点通過率 50%を超えた教科は国語、英語（筆記）、倫理・政治経済、倫理の 4 科目のみであった。これは基礎学力が十分に定着しておらず、思考力を問う応用問題にも対応できなかったためである。学習時間の教科への配分等も含め、課題である。

看護者として希望する進路実現に関しては、例年同様に実習先の確保などが難しくなっている。生徒の実習が安心して行えるよう関係機関との連携を密にしていく必要がある。

専門を生かした進路実現に関しては、専門性を生かした進学割合や専門分野の進学が目標を下回った。競技を続けたい大学では、スポーツ推薦を実施する学部法学、経済、商学が多いことも挙げられる。

積極的な情報発信に関しては、これまでの反省の上に立ち、更新の時期を定め、部活動の成績などをタイムリーに更新することができた。更新の時期をさらに細かく区切る等で、成績等の情報発信をさらにスムーズに行えるよう改善を図る必要がある。

地域・保護者からの高い期待に関しては、諸行事の開催に当たり、地域との連携・配慮が必要なこともあった。引き続き、地域との連携も確実に行っていく。

入学希望者の増加に関しては、オープンスクールの中学校への案内時期をもっと早めてほしいという要望もあり、5月初旬にホームページに掲載する等、積極的に情報発信した。広い範囲からの受検者がおり、また本校が求める生徒像をアピールするためにも、本校への受検者数にとらわれないで、中学校への訪問計画等を再検討する必要がある。

2 今後の改善方策

家庭学習時間に関しては、学習時間が十分に確保できていない生徒への面接指導等をおしてその原因を明らかにし、対策を講じる必要がある。また、生徒が思考する場面を取り入れた授業づくりを推進し、生徒の学習意欲・主体性を高めるとともに、学習の量だけではなく、学習の質にも目を向けさせていく指導も必要と考える。

全国大会レベルの部活動に関しては、平成 28 年度は全国高等学校総合体育大会（中国インターハイ）の一部競技や全国高等学校総合文化祭が広島で開催されたことを生かし、昨年度以上の競技成績や成果を目指し努力することにより、一層のレベルアップを目指し、「Team MINAMI」としての飛躍につなげたい。

豊かな人間性や社会性の育成に関しては、これまでの自主的な社会貢献活動を基本とする取組みを継続して行うとともに、地元で開催された全国高等学校総合体育大会（中国インターハイ）や全国高等学校総合文化祭などの経験をもとに、積極的にボランティア活動に取り組むことにより、広い視野を持ち、将来にわたって社会貢献活動に取り組む姿勢を育成するよう取組みを強化する。

希望する大学への進学に関しては、難関大・広島大、地元国立大学への進学を実現できる力を付けさせ、力を付けた生徒の層を厚くするために、まず既習のはずの知識を十分に定着させる必要がある。さらに、知識・技能を活用して表や文章を読みとり、思考・表現する訓練を積み重ねさせなければならない。そのために、各教科での授業内容や課題の内容と計画、定期テストの内容と観点の見直しを行う。さらに、進路指導部では学部学科研究のあり方を見直し、生徒が自分の志望にしっかりと根拠を持てるように工夫する。

看護者として希望する進路実現に関しては、看護師国家試験の確実な合格が継続するように、また高い意識と専門性を持った看護師となるよう、看護実践力を身に付けるための授業研究、チューター制指導による面接、放課後・土曜日補習、講師を招聘しての保護者説明会等をさらに充実させていく。

専門を生かした進路実現に関しては、自らの競技実績を生かしながら専門分野への進路希望を実現できる学力、体力、競技力を身に付けさせるよう、指導を充実させていく。

積極的な情報発信に関しては、より細かな更新の時期・内容を含む更新計画をつくり、順次更新できる体制づくりをさらに進める。

地域・保護者からの高い期待に関しては、諸行事の案内等をホームページに早い時期に掲載していく。また、行事の魅力を十分伝えられるよう、広報内容や広報の表現を工夫する。

入学希望者の増加に関しては、次年度のオープンスクール等について、参加対象者の希望を把握し、それに合った企画、運営を検討する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策（学校関係者評価実施後に記入する。）

- ・自転車への乗り方等の指導は、他者や自分の命を守ることを柱として、指導を継続して行っていく。
- ・家庭学習時間の確保については、保護者にも情報提供をしながら、粘り強く行っていく。特に高校 1 年生に対しては、中学校との違いを意識させ、真の高校生になるよう初期指導を徹底する。また、ホームルーム担任や部活顧問等、多方面からの指導を行う必要がある。
- ・豊かな人間性や社会性の育成をめざし、例えば高齢者と接する機会を設けたり、家庭との連携をしながら生徒の意識を高めるような取り組みを行う。
- ・生徒の挨拶の状況は、よくできているとの評価をされている。引き続き、「凡事徹底」の指導を行う。
- ・オープンスクールへの出席人数が多く、本校への関心が高いことの良い表れである。ホームページの工夫等で、さらに効果的な情報発信を行っていく。
- ・夏服の移行期間の開始時期について、気温等の状況を見ながら、適切な環境となるよう検討していく。

平成 28 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成29年3月 16 日

校番	1	学校名	広島皆実高等学校	校長氏名	隠澤浩雄	Ⓔ・定・通	Ⓔ・分
----	---	-----	----------	------	------	-------	-----

評価項目	評価	理 由 ・ 意 見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標, 指標, 計画等の設定については, 適切に行われている。 ・ 現代的な傾向を踏まえて, 適切に設定されている。 ・ 部活と勉強の両立をすすめる理念には賛同している。 ・ 生徒の高校生活に対する意識も上がっており, 各目標値が高くなっているため, 目標達成も難しくなっているような気がする。 ・ オープンスクールなどの行事への参加者数も増えており, 皆実への関心の高さがうかがえる。今後もしっかりアピールしていただきたい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価がやや辛口の部分はあるが, 全体的に概ね適切に評価されている。 ・ 学習時間の確保へ向けた, ホーム, 学年, 部活といったいろいろな方向から, 学校全体で生徒を主体的に学習させるような取り組みをお願いしたい。
目標達成に向けた取り組みの適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標達成に向けた取り組みについては, 適切に行われている。 ・ 皆実の生徒の自転車通学時のマナーは, 概ね良好である。 ・ 教職員も努力していることが伝わってきた。 ・ 自転車通学時のマナー向上に向け, 外部の講師を招いての自転車事故体験等の取り組みは適切であったと思う。引き続き, 校門での指導や, 出汐の交差点等の校外指導もお願いしたい。 ・ 生徒が元気に挨拶をしてくれて気持ちいい。今後もしっかりと指導を行ってほしい。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果については, 概ね適切に分析をされている。 ・ 評価結果の分析に当たり, 具体的な数値等をあげて分析をしているので分かりやすい。 ・ きめ細かな面談や, 具体的な指示を行うことが進路実績につながっていることがよく伝わってきた。皆実の良き伝統にしてもらいたい。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組みをよく検討されており, 感心した。 ・ 今後も一層の発展を期待している。 ・ 学習面, 部活動の面でも, さらに発展していく方向性をもって進めていただきたい。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム皆実という意識が定着してきている。教職員が丁寧に一丸となって取り組んでいる様子が伝わってきた。生徒が人間的に成長できるようこれからもしっかりと取り組みを進めていってほしい。 ・ 現在の皆実はよく頑張っていると思う。このまま, 生徒が落ち着いて過ごせる学校づくりをしていただきたい。

